

令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第2回大症例検討会 「こんな時どうしますか? ～より良い在宅医療を目指して～」

○日 時：令和元年6月20日（木） 午後7時30分～9時00分

○場 所：那覇市医師会・4階ホール

○参加者：57名（医師8名、保健師3名、看護師3名、薬剤師1名、MSW5名、
ケアマネジャー・ケアプランナー22名、リハビリ3名、
社会福祉士4名、介護職2名、その他6名）

○司 会：嘉数 朗 氏（那覇市医師会 在宅医療・地域包括ケア担当理事）

●症例①：『在宅診療所におけるMSWの役割』

発表者：ゆずりは訪問診療所 医療ソーシャルワーカー 宮城 有 氏

●症例②：『地域で孤立しがちな独居の高齢者を医療につなぐには・・・?』

発表者：那覇市地域包括支援センター若狭 主任ケアマネジャー 島袋 昌子 氏



司会：嘉数 朗 氏



発表者：宮城 有 氏



発表者：島袋 昌子 氏

※ 参加者アンケートの集計結果は別紙をご参照ください。

ディスカッションしている風景



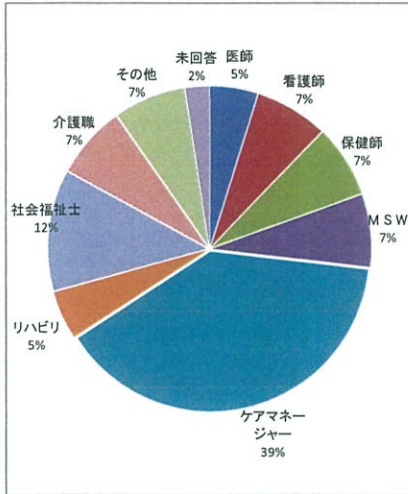
令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業 第2回大症例検討会アンケート集計結果

日時：令和元年6月20日(木) 午後7時30分～9時00分
場所：那覇市医師会・4階ホール

参加者：57名
回答者：41名
回収率：72%

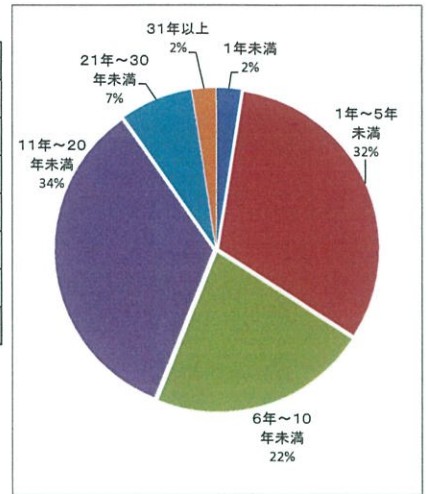
アンケート回答者の職種

職種	人数	割合
医師	2	5%
看護師	3	7%
保健師	3	7%
MSW	3	7%
ケアマネージャー	16	39%
リハビリ	2	5%
社会福祉士	5	12%
介護職	3	7%
その他	3	7%
未回答	1	2%
合計	41	100%



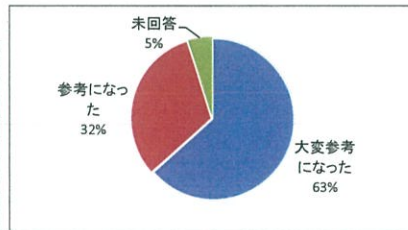
アンケート回答者の経験年数

経験年数	人数	割合
1年未満	1	2%
1年～5年未満	13	32%
6年～10年未満	9	22%
11年～20年未満	14	34%
21年～30年未満	3	7%
31年以上	1	2%
合計	41	100%



①大症例検討会の内容について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

選択肢	人数	割合
大変参考になった	26	63%
参考になった	13	32%
未回答	2	5%
合計	41	100%



◇左記の回答について理由・感想をお聞かせください。

- ・考えさせられる内容だった。
- ・本人が支援を拒否している際の関わり方について勉強になった。
- ・本人の同意がなくても受診できる（緊急時のみ）。
- ・ヘルパーからの意見も話せたらよかった。
- ・在宅診療所におけるMSWの話しが興味深かった。

- ・現在、精神科受診につながらないケースに頭を悩めているので、色々な意見を聞くことができ勉強になった。
- ・情報の取り方、他職種連携（様々な専門的視点での意見）、チームプレイの在り方など、とても参考になった。
- ・困難事例への対応について考えるきっかけになった。
- ・在宅にこだわるガン末期患者様の意志決定支援や医療につなげられない方への対応など勉強になった。
- ・医療職は何かあった時に介入できるが、包括支援センターの方々は介入しづらい現状があるので大変さがよく伝わった事例だった。
- ・訪問診療にいるMSWはあまりいないと思うので、すごく大事な役割をしているんだなと思った。
- ・在宅につなげる際に、どれだけ地域につなげられるかの情報が必要だと感じた。
- ・配布できる資料があるなら配布してほしい。ただスクリーンを見ながら聞くよりも頭に入り勉強になるので。

②症例 I：『在宅診療所におけるMSWの役割』について 発表者：宮城 有 氏

- ・独居の認知症高齢者を支えるために小規模多機能型居宅介護事業所も有効です。訪問看護、訪問診療と連携して本人を支えることができます。
- ・とても難しいケースを自宅で本人らしく過ごせるようにと地域の資源のみで調整したMSWさんや他に関わって支援された方々はすごいと思った。今後の参考にさせていただきます。
- ・在宅生活を行なう時の障害とは？本人の意向？家族の意向？誰の人生？
- ・多職種連携で利用者にとって何が一番良いのか？と考えさせられた症例で勉強になった。
- ・認知症があっても、独居でも本人の意向を尊重して在宅で家族に看取られながら最期を迎えることができることを教えて頂いた。また、関係機関との連携や社会資源も活用したMSWの視点も素晴らしいと思った。
- ・本人の意向、家族の意向が違う時にどのように支援していくのか現場において多くあります。予後も考え、他職種と連携しながら支援していくことはとても大切だと思った。
- ・「支援」という支配を行なっていないかという言葉が非常に印象に残った。
- ・地域資源の知識と終末期の家族間の関係性の変化が感動的だった。
- ・ヘルパーにも似たような事例があり、今後は利益にならなくても訪問していくことが重要だと思った。

令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業 第2回大症例検討会アンケート集計結果

日時: 令和元年6月20日(木) 午後7時30分～9時00分
場所: 那覇市医師会・4階ホール

参加者: 57名
回答者: 41名
回収率: 72%

- ・病状がどうであれ、認知症の方だとしても本人の意志を最大限に尊重した体制づくりが良かったと思う。
- ・MSWからの調整後、介護保険のケアマネの関わりや役割分担などについて知りたい。
- ・ガン末期でも在宅医療を利用すれば看取りができること、本人の自宅で暮らしたい思いを実現できることを再認識できた。また、社会資源でリサイクル福祉用具(社協)やまちづくりサポーター等の情報提供をいただいたことに感謝です。
- ・非常に考えさせられた事例で、サービスの調整に時間をかけたり、周りの関係性を築き取り組む姿が勉強になった。
- ・普段関わらない小児在宅医療について知ることができ勉強になった。制度や社会資源がもっと整備されたら良いのになと思った。
- ・今後、自宅でも医療処置が受けられたり、最期まで過ごすことが出来ることが周知されたら、独居の高齢者の在宅支援ニーズが増えてくると思う。地域支援を可能な限り活用しながら見守りできる地域密着型の支援強化が今後必要になってくると思った。
- ・本人の望む暮らしが大切だと思った。私は子供たちに「老後や葬儀は自宅でお願いね」と今から話しているので、本人が最期までどのように自宅での暮らしを迎えたいのか意思確認が必要だと思った。

③症例Ⅱ:『地域で孤立しがちな独居の高齢者を医療につなぐには・・・?』について 発表者: 島袋 昌子 氏

- ・見守る立場の人の粘り強い対応が素晴らしいと感じた。チームで支えるのが大切だと思う。
- ・身内がない人の関わり方について勉強になった。また、色々な制度を利用することの大切さを知った。
- ・関係構築が難しく、医療につなげるのに2年かかった事例で、そこまで諦めずに関わっていた包括や見守りネットワークを作ってきた過程がすごいなと感じた。
- ・介入が難しいケースについて、あらゆることを想定して、いざという時に対応できるように各関係機関や家族と連携しながら準備を進めて支援していくことの大切さを改めて感じた。
- ・本人との関係づくりも進めながら、その他できる範囲の手続きも同時に進めていくことが大切だと思った。
- ・根気強く関わってくれたことが本人にとって大きかったと思う。関係構築ができていたからこそゴミの片づけや受診につながった。
- ・ネットワーク協力者を増やすことの大切さ、何か起きた時に備えて考えられることの準備をしておくこと、往診医師からの助言、ゴミ屋敷の方への「たくさん集めましたね」などの声かけ方法など、改めて認識・参考になった。
- ・ケアマネからの医療につなげるための相談はできるのでしょうか?
- ・キーワードは「諦めない」という思いで対応していけば良いと思った。このような事例は今後増えてくると思うので勉強したい。
- ・セルフネグレクトで非常に難しいケースだと感じた。本人の意志と生命の危機の間で揺れ動いて支援が難しかったと思われる。

④今後、どのようなプログラム(テーマ)があったら参加したいと思いますか?

- ・自宅での看取りについて
- ・医療と福祉のつながりや連携などについて
- ・若年性認知症について(①家族は介護保険でデイサービスを希望している、②本人は50代と若いため介護保険が妥当なのか疑問、③就労支援からはやんわりと拒否されている、④自殺願望もある方)病院から入院を拒否された時、どうすれば良いのか?
- ・高齢者に多いパーキンソン病について、本人にどう寄り添っていくのか等。
- ・介護保険やケアマネさんが興味を持つテーマが多く感じるので、本日お話しされていた「在宅におけるMSWの役割」のように障がい児者の支援や在宅に関連した研修会があれば良いと思った。相談支援員、訪問看護、ヘルパーさんなどを対象にしたテーマ。
- ・高齢者虐待について
- ・社会的問題を抱えている方に対する法的な支援の関わり方などについて
- ・在宅リハビリについて
- ・被害妄想のある方の対応について(自分自身がターゲットになってしまわないための関わり方など)
- ・多職種連携をとる上での情報共有方法などについて
- ・災害時の医療と介護の連携体制について
- ・病院の病床機能(急性期、地域包括ケア、回復期リハビリなど)について(病床別の在院日数の違いなど)
- ・小児在宅について
- ・介護されている家族の心理的サポートについて
- ・精神疾患に関することについて